



実話を基にした  
荒尾の宮崎兄弟の青春群像劇



漫画家  
きむら なおみ  
木村直巳先生が  
やってくる!  
60人限定の  
サイン会も開催!  
※要予約

宮崎兄弟の生家施設開館30周年記念

# まんが「宮崎兄弟物語」 トークショー

— 漫画家の視点からみた滔天たちの世界 —

8月19日 土 参加費無料

時間 トークショー 13時～ / サイン会 14時～

場所 ゆめタウンシティモール1F センターコート

問 文化企画課 ☎63-1274

## トークショー



漫画家・木村直巳先生

木村直巳 Kimura Naomi

1962年(昭和37年)9月17日東京生まれ。

1978年15歳で朝日ソノラマの『月刊マンガ少年』新人賞で佳作入選、同誌に受賞作『最後の妖精』が掲載されデビュー。代表作には『ダークキャット』、『イリーガル』、『監察医朝顔』をはじめ、第7回文化庁メディア芸術祭で優秀賞を受賞した『てんじんさん』等多数。大阪芸術大学キャラクター造形学科客員教授。マンガジャパン・漫画家協会に所属。

宮崎兄弟の生家施設会館30周年記念として、『宮崎兄弟物語』の作者である漫画家・木村直巳先生によるトークショーを開催。

漫画制作にあたっての思いや裏話、漫画家の視点からみた滔天たちの世界について語っていただきます。

## サイン会

トークショーに続いて、先着60名限定(事前申込)のサイン会も開催。「宮崎兄弟物語」のカラー表紙にその場でサインがもらえます。(※なお、時間の都合上、木村直巳先生の作品漫画をお待ちいただいてもサインはお断りさせていただきますので予めご了承ください。)

『宮崎兄弟物語』は現在電子書籍のみで閲覧可能となっていますので、カラー表紙はここでしか入手できない超レア物です！

サイン会は要予約



申し込みはこちら

令和4年、市立図書館のデジタルライブラリーに導入されたデジタルまんが「宮崎兄弟物語」。物語は、八郎という圧倒的存在感を放つ兄に影響を受け、「先天的自由民権家」と自覚し育つ寅蔵(のち滔天)の少年時代から始まります。「万国共和の極楽」をめざして様々な人々と出会いながら思索を重ね、やがて兄・彌蔵の説く世界革命に深く共鳴し、その第一歩として中国革命に身を投じていったこと、その活動の中で中国の革命家・孫文と運命的な出会いを果たし、辛亥革命成功に至るまでの軌跡を描いています。

作画は、『監察医朝顔』の漫画で知られる木村直巳先生が担当。宮崎滔天はじめ、宮崎家の人々の魅力が生き生きと写実的に描かれています。

あらお電子図書館はこちら



市立図書館のデジタルライブラリーとあらお電子図書館で読めます。

